

進路だより

札幌市立幌東中学校

第 20 号

2026.8.27

令和9年度 入学者選抜についての情報

その③

高校入試には、一般入試の他に「推薦入学者選抜」という制度があります。多くの高校の推薦入試では、その学校を第一志望とする受験生を対象として、学力試験ではなく、「面接」等での合否判定を行います。高校入試における推薦入試について、「学力試験を受けなくていいから推薦のほうが楽かも」「1回チャンスが増えるなら、とりあえず受けてみたい」と安易に考える人がいるかもしれませんが、【一般入試とは受験科目や試験日が異なる別の選抜方法】と考えたほうがよいでしょう。

公立高校 自己推薦による入学者選抜

公立高校で推薦入試を実施する学校は、数年前から「自己推薦」となりました。「英語による問答」・「実技」・「適性検査」・「作文」・「面接」等（各高校により異なります）と、「個人調査書」・「自己推薦書」等によって合否が判定されます。各高校から提示されている「入学者の受入れに関する方針等（どのような生徒を求めているか）」をよく読み、自らと合致していると考えた生徒が受検する制度です。「入学者の受入れに関する方針等」は高校や教育委員会（北海道・札幌）のホームページに掲載されています。自己推薦入試では「高校側が求める姿に、これまでの経験や実績から、自分はどのように合致しているか」「高校で何を身に付けたいのか」「将来についてどんな目標をもっているのか」等について詳しく問われます。その高校を第一志望とする強い意志をもち、十分な学力と、自己推薦書をしっかりと書く力があり、面接の場で自信をもって自分の目標や考えを伝えることができる能力を必要とします。推薦入試にも定員がありますので、合格内定をもらえない生徒も出ます。その場合は、その通知をもらった後に一般入試に再出願し、気持ちを切り替えて学力試験に臨まなければなりません。もちろん、推薦で合格内定をもらえな

かった生徒が一般入試に再出願し合格するケースもありますが、推薦入試に向けた勉強（面接や作文など）」と「一般入試に向けた勉強」を同時に進めなければなりません。また、公立高校の自己推薦は、1月に出願し、出願した後に出願先高校を変更することはできません。さらに、推薦の面接試験に欠席した場合や合格内定後に入学確約書が未提出の場合は、他の公立高校一般受検に再出願することもできないので慎重に考えなければなりません。

私立高校 推薦による入学者選抜

私立高校で実施される推薦入試は、高校により「自己推薦」の場合と、「中学校長による推薦（学校推薦）」が必要な場合があります。

「自己推薦」の場合は、公立高校の自己推薦と同じように「高校側が求める姿に、これまでの経験や実績から、自分はどのように合致しているか」「高校で何を身に付けたいのか」「将来についてどんな目標をもっているのか」等について詳しく問われます。その高校を第一志望とする強い意志をもち、十分な学力と、面接の場で自信をもって自分の目標や考えを伝えることができる能力を必要とします。

「中学校長による推薦（学校推薦）」が必要な場合は、中学校では推薦出願の希望をもっている生徒に対し、11月中旬から校内の「推薦委員会」において、本校の推薦基準や各高校が示す基準に照らし合わせて審査が行われます（推薦委員会は受験する高校に合わせて必要と判断される場合は適宜行われます）。12月の校長面接を経て推薦が決定されると出願することができます。私立高校の場合は公立高校一般受検との併願が認められている場合もありますが、合格したら必ずその私立高校に入学することが出願の前提となっています（札幌日大高校の推薦入試Ⅲを除く）。出願の要件は各私立高校で設定されていますので高校のHPや募集要項で確認してください。

なお、私立高校の推薦入試の出願時期は私立単願入試の出願と同じ12月です。

少しでも「自己推薦」や「学校推薦」を考えている人は まずは担任の先生に相談してください!!

ちなみに、一般的には「入学試験」を受けるという意味で「受験」と表記しますが、公立高校の場合は「学力検査」を受けるという意味で「受検」と表記します。